

6月定例会最終日

学校給食無償化請願で討論採決



米原市民報

日本共産党米原市会議員
山脇正孝 Tel.52-1093
日本共産党米原市会議員
藤田正雄 Tel.55-1527

<http://www.jcp-maibarashigidan.com/>

6月28日6月定例会最終日に執行部提出議案12件の採決、それと「学校給食の無償化を求める請願」が討論・採決されました。12件の議案は全員賛成で可決成立しました。成立した内容については後日報告します。学校給食費の無償化の請願は、健康福祉教育常任委員会で3対4で否決されており、最終日、本会議で討論採決が行われました。賛成討論には、日本共産党米原市議団の藤田、山脇議員が行い、反対討論には天翔クラブの後藤議員が行い、その後の採決結果は5対10で不採択となりました。

藤田議員の賛成討論

今、日本において少子化の克服が大きな課題です。日本の未来を作っていくのは子ども達です。しっかりと子どもたちに投資をしなければ、日本の未来はありません。これは国の問題だ。また地方の問題だと議論している場合ではありません。できることからしっかりと実行していくことが重要です。市長は選挙公約に「県下一、子育てがしやすい米原市」を掲げています。

子育て世代の生活実態は

内閣府の「我が国の所得・就業構造について」の資料があります。「全世帯・所得分布」で年間所得の1994年の中央値が509万円だった数字が2019年には374万円になっており25年間で実に135万円減っているのです。また、どの年代の減少が一番多いかの報告されています。35〜44歳は104万円、45〜54歳は184万円の減少となっています。これが日本の現状です。今この世代が子ども教育費負担し、さらにの大学などの教育費の負担にあえいでいるのが現状です。今、何でも自己責任にする新自由主義の議論も成り立ちません。今の保護者の世代は就職氷河期を経験してきた世代です。決して個人責任ではないはずですが、これらの世代に支援をしなければ、少子化は食い止められません。

憲法を暮らして生かす

憲法は義務教育は無償とすると書いています。少子化を食い止めることはできません。まさに「憲法を暮らしに生かそう」を実践しようではありませんか。

山脇議員の賛成討論

1951年共産党の議員の質問に対して、文部省は、「憲法に定められている義務教育の無償をできるだけの早く広範囲に実現したい」ということは、政府としての根本的な考え方だと述べました。現在は授業料だけが無償の対象だが「そのほかに教科書とそれから学用品、学校給食費、さらには交通費も将来的には無償にしたい」と言っています。その後日本は、高度経済成長を達成し「経済大国」

市民の切実な声に答えるよ

先日、あるお母さんから電話があり、今の世の中、生活がよくなっていくという展望がもてない。子どもが2人もいると、給食費が払えなくなる可能性もある。給食が無償化になれば、安心して生活できるという内容でした。

就学援助制度は、今厳しい状態にある世帯を救ういい制度ですが、給食の無償化は、未来の貧困を救うかもしれない制度のひとつです。さらに子育て世帯だけに役立つ制度ではありません。あるとき、署名してくる署名をしても、わしら年寄りにはなにも得はない。でも、まちの至る所で子どもたちの声が聞こえるようになる。と元気が出る。「今、大切なのは元気なまちづくりです。至る所で子どもたちの声がするまちです。そんなまちを生み出すのはまさに議員の仕事ではないでしょうか。」

議員名	会派名	学校給食無償化請願	議長
山脇正孝	日本共産党市議団	○	
藤田正雄	日本共産党市議団	○	
山口久志	天翔クラブ	○	
鹿取和幸	天翔クラブ	×	
磯谷晃	天翔クラブ		議長
後藤英樹	天翔クラブ	×	
矢野邦昭	天翔クラブ	×	
今中力松	天翔クラブ	×	
中川松雄	天翔クラブ	×	
鏑田明	天翔クラブ	×	
中川雅史	政策研究会マイバラ	○	
堀江一三	政策研究会マイバラ	×	
山本克巳	政策研究会マイバラ	×	
吉田周一郎	政策研究会マイバラ	×	
振角大祐	無会派	○	
細野正行	無会派(公明党)	×	
結果			不採択

